

よなごびと

| 第53回 |

山の談話室

すみ あきお
角明男 さん



山を登って得たものは

かけがえのない個人遺産

登山家の角さんは、米子市大崎の自身が営む喫茶店で「山の談話室」を開き、長年の登山経験を生かし、登山に関するアドバイスや山登りの楽しみ方を伝えていきます。

角さんにとっての始まりの山は、地元・大山でした。20代のころ、大山寺から山頂小屋へ食料などを運ぶ歩荷ほっかの仕事を経験し、山登りに自信をつけた角さんは、さまざまな日本の名峰を巡りました。

そんな角さんが憧れたのは、ヒマラヤ山脈。いつかは登りたいと思うものの、「登頂するためには、期間は約2か月弱、費用もかなりかかるため、登れる体力や技術があっても、その時の仕事や家庭の状況が大きく関わる」と、夢に蓋をしていたと言いま

す。そんな中、40代で入会した日本山岳会山陰支部の50周年記念で、ヒマラヤ登山の計画が持ち上がりました。家族と職場の理解のもと、仕事を休職して挑んだメラ・ピーク。天候にも恵まれ、7人の遠征隊は全員無事に登頂を果たしました。「山頂からの展望は360度何も遮るものなく、エベレストなどの8000m峰が連なる光景は、まさに『神々の座』だった」と振り返ります。

角さんは、「山の雄大な景色と共に思い出すのは、一緒に登った仲間たちの笑顔。難易度の高い山も、仲間と一緒に登ることができた。登山を通じて、かけがえのない個人遺産を得ることができた」と目を細めます。

山の談話室

- ▶とき 4月19日(水) 午後2時30分
- ▶ところ ナムチェバザール (米子市大崎 1209-1)

山の談話室は毎月第三水曜日午後2時30分に開催。山に関する相談は手紙でも受け付けている。宛先は店舗宛。



ヒマラヤには40代と70代のメンバー7人で登頂した

